

お知らせ

🔔 「博物館の多言語アプリ 導入 & 活用 調査報告」発行のお知らせ

スマートフォンが通信&情報収集手段の主役に躍り出た昨今、博物館の情報発信もスマホ利用が前提になってきました。弊社にも全国のミュージアムからご相談をいただいておりますが、2020年を目前に控え、訪日外国人への対応に関する質問なども急増中。今後は、来館者向けの情報提供はおろか、バイリンガルでの案内に対する社会的な要請が強まりそうな気配です。

スマホの普及と訪日外国人の激増がともに日常風景と化していることから、公共施設の多言語対応サービスは、もはや既定路線と言えます。しかしながら、特に小規模ミュージアムの皆様からは、「必要であることは理解しているが、何かから手を付けたらよいのか分からない」という困惑の声が弊社にまで届いています。情報サービスに関するノウハウを得る機会が少ないので、無理もありません。

そこで、弊社関連会社であるミュージアムメディア研究所では、これからの情報サービスをワンストップで解説するコンパクトなガイドブックが必要とされているのではないかと考え、「多言語アプリ導入&活用調査報告」の制作を企画いたしました。中でも、すでに『ポケット学芸員』を導入され、多言語で展開されている館の事例は、これから準備される館にとっては教科書となり得るものと確信いたします。博物館及び関連施設・機関には無料でお届けいたしますので、ぜひご請求ください。

博物館の多言語アプリ 導入 & 活用 調査報告 (以下予定)

■体裁=A4 カラー 48ページ

■発行=令和元年9月1日

■内容=[統計調査]訪日外国人の動向と博物館のインバウンド対応/[特別寄稿]多言語翻訳と多言語ナレーションの重要性/[現場取材レポート]博物館の多言語アプリ その効果と課題 ……など



✍️ 編・集・後・記

少し前のことですが、礼文島の船泊遺跡で見つかった縄文人の人骨からDNAを抽出し、それを使って縄文人の顔を復元したというニュースがSNSを賑わせましたね。先日訪問した礼文町郷土資料館では、発掘の際の写真が展示されていました。人骨の保存状態が極めて良好であったことは、素人である私が見ても一目瞭然。寒冷地であるがゆえにバクテリアの活動が活発でないことが、保存にはプラスに働いたとのことでした。

話は変わって、夏のきものの最高峰と言われる宮古上布。宮古島の特産品ですが、繊細な伝統工芸が発展したのは、「人头税」という重い税制で苦しむ庶民が生活の糧を得るためだった…という背景を、宮古島市総合博物

館で学びました。宮古島はサンゴ礁で出来た島で、雨水がすぐに地中に染み込むため川がない。農業が発展しにくい土地柄が、600年の伝統を誇るという素晴らしい宮古織物につながったのでしょうか。

仕事を通じて博物館めぐりをしていると、子どもの頃に別々の教科として習ってきた理科と社会が密接につながっていることに気づかされます。複数の分野の専門家が掘り下げた知見を引っ張り上げて、知見どうしをつなぐことで新たな発見に導くのは、まさに学芸員の仕事。そこで今回は、特に子供に対して、「科目」に縛られずに気付きをもたらすミュージアムの試みを取材しました。日々のお仕事のご参考となれば幸いです。

www.facebook.com/wasedasys
早稲田システム開発株式会社

MAPPS
press

News Letter from MAPPS
2019.09
No.13

頑張れ、ミュージアム。



発行元:早稲田システム開発 株式会社
東京都新宿区高田馬場4丁目40番17号
TEL.03-6457-8585 FAX.03-6279-3333
www.waseda.co.jp/

CONTENTS

ミュージアムIT屋さん、現場を往く！
ミュージアムグッズ
フゴッペ洞窟のオリジナルTシャツ

ミュージアムリサーチャー 3連発!

- ① 北広島市エコミュージアムセンター-知新の駅
- ② 石川県西田幾多郎記念哲学館
- ③ 本郷新記念札幌彫刻美術館

ミュージアムITトピック

- ① 「ポケット学芸員」の2大ニュース
- ② PICK UP を使いこなそう

新機能情報
画像の利用条件・ライセンス表記

お知らせ
刊行情報：多言語アプリ 導入&活用調査報告



ミュージアムIT屋さん
現場を往く

中学生が発見した遺跡 余市フゴッペ洞窟
フゴッペ洞窟のオリジナルTシャツ

本紙の前号(MAPPS Press Vol.12)で、大阪府立弥生文化博物館の取り組みを特集した際に、「博物館が発行する『考古楽カード』を集めるうちに展示にも詳しくなった少年」をご紹介しました。子どもたちの持つ可能性を実感できるエピソードは個人的にも大好きなのですが、彼のような考古学少年は戦後間もない当時にもいたようです。

北海道余市町にある国指定史跡「フゴッペ洞窟」が発見されたのは、札幌在住の中学生が見つけた土器片がきっかけでした。昭和26年、北大教授を団長に結成された調査団が発掘を開始すると、さまざまな土器や骨角器、さらには縄文時代後半(本州の時代区分では弥生時代頃、約1600~1300年前)の岩壁彫刻を多数発見。近年は、世界的文化遺産として高く評価されているそうです。

地元では、フゴッペ遺跡の関連グッズが多

数販売されています。こちらのオリジナルTシャツは、何と余市水産博物館の館長自らのデザインとか。短パンにもジーンズにも合わせやすい濃いめのグレーで、デザインもなか

なかおしゃれだったので、思わず2着購入してしまいました。今年の暑さも終盤といたった今日この頃ですが、五輪イヤーの来夏に向けておススメのミュージアムグッズです。



ミュージアムリサーチャー 3 連発! ①



つくる! 展示する! 見る! 美術館と学校が手を携えてこそできること
本郷新記念札幌彫刻美術館 の取り組み



その展示室には、人をかたどった紙がたくさんぶら下がっていました。神秘的な深い森の中で、紙の人々が思い思いに躍動するこの空間は、アーティストと地元の小学生たちの共同作業で生み出されたもの。札幌市にある本郷新記念札幌彫刻美術館で開催された「わくわく★アートスクール」の光景です。



「ほんごうしんじゅりん 本郷新な私」と題して、アーティストの磯崎道佳氏と美術館、子どもと一緒に作り上げる展覧会。まずは本郷新の彫刻作品のポーズをまねる「ほんごうしん体操」に挑戦し、ポーズをとった等身大の自分をかたどって、美術館に「本郷新・樹林」として展示する…そんな試みなのです。

「今回の事業では、制作から展示、そして鑑賞と、美術にまつわる3つの体験を用意したんです」とお話くださったのは、当日、ご案内いただいた寺嶋館長。美術の授業では作品の制作、学校連携事業で美術館を訪れる時は鑑賞体験が中心ですので、まったく新しいアート体験になるわけですね。

館内風景としては、吹き抜けの空間がある建物の特徴が十分に活かされています。

た。大きな木を作り、渡り廊下にも作品が吊るされているので、美術館全体が深い森のような雰囲気なのです。美術館に自分の作品が展示されるなんて、それを聞いただけで子どもたちのテンションも上がったことでしょう。

今回の「自分の体をかたどった紙」は、それ単体で見ると、みんなで協力して数多くの「人」の中に置くのとは、意味合いがまったく違ってきます。空間全体がひとつの「作品」になっていると同時に、自分の作品が社会性を帯びるわけです。展示自体が共同作業となるので、子どもたちの達成感もひとしおだったはず。自分の作品と、みんなの作品を同時に完成したのですから。

さて、私がお邪魔したこの日は、実は展覧会開催の前日でした。バックヤードは、ま

だ「樹林」制作作業の名残がありました。展覧会にあたっては、造園業者さんに協力を仰いで木々を提供してもらったのですが、まず葉っぱを落とし、虫害の防止のために燻蒸を行ったのだそうです。

作業で使用した道具も、一部はまだそのままの状態。ミュージアムで弾ける子どもたちの笑顔の裏には、いつも、学芸員さんたちの汗があります。それにしても、現在の美術館の学芸員には、DIYのスキルも求められてしまうのです。大変な努力ですが、その汗を惜しまないからこそ、子どもたちに「届くもの」の大きさも違うのでしょう。

「わくわく★アートスクール」事業は、2017年から続いています。2017年は「星空と生命」、2018年は「つながり」がテーマで、当初から「つくる」「展示する」「完成した展覧会を鑑賞する」という3段階を通



して芸術文化を身近に感じ、主体的で創造的な体験学習の機会を提供することを目的といたそうでした。自分が子どものころ、また自分の子どもが通っていた小学校にこんな授業があったら、きっと楽しかっただろうなあ…と思わずにはいられませんでした。

参加した子どもにとっては、最高の思い出になるだけでなく、きっと何かのチカラになる体験。地元出身の彫刻家の作品を数多く所蔵する小規模な美術館という特性を十分に活かした取り組み、その知恵と努力に感心させられっ放しの日となりました。

 **本郷新記念札幌彫刻美術館**
<http://www.hongoshin-smos.jp/>



ミュージアムリサーチャー 3 連発! ②



ミュージアムは、「考える教育」の社会装置
石川県西田幾多郎記念哲学館 の取り組み

今回は、日本で唯一の哲学をテーマにしたミュージアム、石川県西田幾多郎記念哲学館の「哲学対話」の取り組みをご紹介します。私自身は、哲学に関する知識はまったく持ち合わせていなかったのですが、自然に「これからは哲学が大事になるかも」と感じるほどの刺激を受けることができました。

私たちは、子どもの頃から、社会や学校、所属する組織の規範やルールに従うことを前提に教育を受けてきました。けれども、社会の変化がとても早くなり、ルー

ルの制定や変更が追い付かなくなり始めた現代。参照すべきルールが見当たらなかったり、古いルールがそぐわなかったりすることが増えてきたようにも思います。そんな中で、これからの社会はさらに変化の速度が増すかも知れないとしたら。時には「ルールがない状態で判断しなければならない」ケースも生じるかもしれません。

石川県かほく市には、「共通道徳」という授業があります。市町村合併前の旧・宇ノ気町の時代、西田記念館(西田幾多郎記念哲学館の前身)では、小学校の先生たちの間で「子どもたちに地元の偉人・西

田幾多郎を学んでもらおう」という活動があったそうです。合併後も、市内全体で共通の道徳教育ができないかという思いのもと、平成21年から上記の授業が実施されるようになったのです。

その授業の一環で、西田幾多郎記念哲学館には子どもたちが訪れるようになりました。でも、西田幾多郎という人物を知ることではできたとしても、「哲学って何だろう」という疑問が残ってしまいます。そこで、平成29年度からは「哲学対話」がプログラムに加わりました。

哲学対話では、たとえば「努力したら必ずよいことがあるのか」といった設問に対する答を考えなければなりません。でも、これは大人でもすぐに答えることは難しいですし、しかも正解らしい正解はないのかもしれない。私も考えてみたのですが、生前には評価されることなく没後に認められた芸術家については、何と答えるべきなのか…。

これ、実は「何と答えてもよい」んですよね。

哲学対話は、クラスでの通常のコミュニケーションとは違い、何を言ってもよい場となります。どんな発言も、どんな発言者も、原則として「認められる」のです。セーフティな場であるがゆえに、今まではなかなか発言できなかった子、あるいは人と落ち着いて対話するのが苦手だった子など

も、しっかり発言できるようになるのだとか。実際に、ギクシャクしていたクラス内が円滑になるなど、さまざまな効果が現れているそうです。

哲学対話では、博物館スタッフも「教える立場」で教壇に立つのではなく、子どもたちの輪に入って一緒に考えるとのこと。いわば子どもと同列の立場になるわけですね。対象は小学5年生と中学2年生ですが、中学生は授業が終わった後も自分たちで「問い」を出し合って、対話の続きを行う生徒もいるようです。

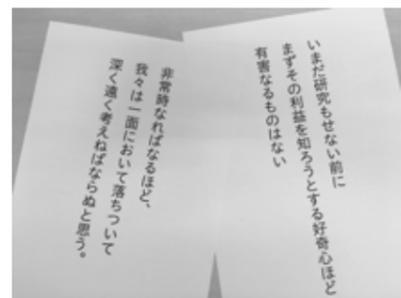
うへん、こんな教育もあるのだなあ…と感心してしまいました。

さて、こちらの館内には、思索を促すパネル展示があります。自分自身の考えに没頭できる場が提供されているだけでなく、持ち帰ることができるカードも多数設置。

帰宅後も「思索のトレーニング」ができるわけですね。

かほく市共通道徳の哲学対話。ここで哲学に触れた子どもたちは、物事の本質を見て自分の力で考え、自分で答を導き出す力が身についていくのでしょうか。それは、これからの社会では、きっと今よりも大切になっていくこと。そんな教育の核としてミュージアムが欠かせない存在となっているのであれば、とても素晴らしいことですよ。

特に「思索を巡らせる展示」は、必ずしも哲学がテーマの館でなくても応用できるはず。ある資料を題材に、みんながフラットな立場で考えを持ち寄れるようなイベントがあってもよいかもしれませんね。



ミュージアムリサーチャー 3連発! ③



寒い地域によく似合う「手作り」展示の温かさ 北広島市エコミュージアムセンター知新の駅

の取り組み



「手作り」という言葉の意味を辞書で調べると、「機械を使わないで、手で作ること。店で買わないで、自分の手で作ること」とあります(デジタル大辞泉の解説より)。手作り品は必然的に「1点もの」となりますので、博物館とはとても親和性が高いということになるわけです。

今回訪問した「北広島市エコミュージアムセンター知新の駅」では、来館者・利用者を楽しんでもらおうという気持ちが伝わってくる、さまざまな「手作り」が迎えてくれました。寒い北海道だからこそ人の温かさが心地よい、もてなし上手のミュージアム。今回は、その「手作り」にフォーカスしながら館内の様子をレポートします。

■ 数々の「手作り展示」

こちらは、小学校の校舎を活用した施設です。学校の名残が残る廊下の壁には、長い定規のような目盛りと丸いカードが貼ってあります。実は、カードは手でめくることが可能。約46億年前の誕生から人類の誕生まで、地球上で起きた主な出来事が書かれています。目盛りは年数を示しているのです。

定規の目盛り上では、人類(猿人)の誕生はほとんど最後に近い位置。ほんの少しの長さしかないため、地球の歴史の中で人類がいかに「新参者」であるかが感覚的に分かります。これは、オープン当時のスタッフの方が、子どもたちに分かりやすく伝えようと考案されたものとか。何の変哲もない廊下が丸ごと体感型の教材に…素晴らしいアイデアですね。





写真に写っているトンボの標本は、地元で採集されたものだそうです。「私も採ったんですよ」と胸を張って説明してくださったのは、歴史担当の若い女性の学芸員。「昆虫標本は自然史担当の学芸員の仕事」、そして「若い女性は昆虫が苦手」。こんなふたつの思い込みが一気に崩れてしまいました。

ベテランの男性学芸員が同行してくれたとのことですが、虫取りの網とカゴを持った大人たちのお出かけシーンを想像して、心もポカポカに。ご自分の手で集めた昆虫標本であれば、来館した子どもたちへの説明にも熱が入るのでしょ。まさに「手作り」ならではの。

最近のミュージアムでは、昭和の暮らしの展示をよく見かけます。こちらでは、モノを時系列で並べた展示が興味深いものでした。電卓、あるいはアイロンがどう進化してきたのかがひと目で分かりますよね。シンプルだけど効果的な展示アイデア…まさに「一本取られた」という気分になりました。

企画展も手作りの工夫

さて、この日は「北海道150年事業企画展 北広島のお米から北海道のお米へ」という企画展が開催されていました。こちらでも、随所に「手作り」の味が見られました。

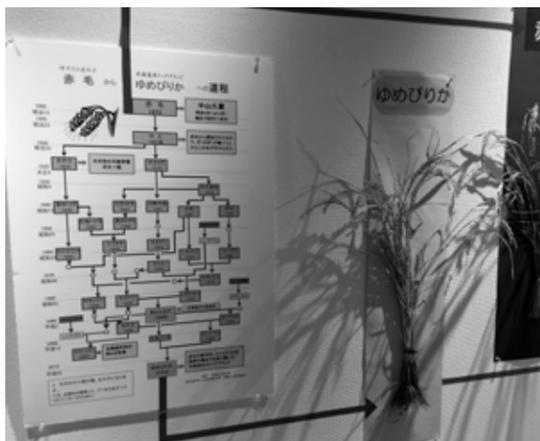
たとえば、この展示。明治6年、寒冷地米の「赤毛」を栽培することに成功した中山久蔵の偉業を中心に、コメ作りの歴史を学ぶことができます。「ゆめびりか」「ななつぼし」など、地元・北海道のブランド米の知識にも触れられるのですが、ここにもアイデアが。

この家系図のようなチャートは、コメの品種改良の歴史を表しています。その横に、中山久蔵がもたらした「赤毛」と現在のブランド米「ゆめびりか」の稲が展示されているのです。品種改良が、まさしく「目で分かる」わけですね。

中山久蔵氏は、稲作を始める開拓者に種もみを無償で配布したとのこと。これがきっかけとなり、北海道全域にコメ作りが広がって、現在のおいしいブランド米の成功につながっているわけです。展示ではその過程を学ぶことができるのですが、加えて「北海道米ものがたり」という4ページのマンガも用意されていました。北海道におけるコメ作りの苦闘と成果が、子どもにも楽しく理解できるように描かれています。

最後に「拜啓 中山久蔵様」と書かれたボードがあり、来館者がメッセージを紙に書いて貼れるようになっていました。今の私たちの幸せな暮らしは、先人の苦勞のおかげ。学びながら感謝の気持ちを自然に育む工夫満載の展示のラストに相応しい、素敵な仕掛けです。

「お返事は返せません」というコメントが、またいいですよ。もちろん、これも「手作り」でした。



利用者が参加する手作り

実に参考になる展示で満足…と思いきや、実はここからがハイライトです。

写真のキタヒロシマカイギュウの骨格模型をご覧ください。こちらは、何と学芸員と北広島の子どもたちが共同で制作したものとのこと。展示を前に説明をお聞きして、本当に驚きました。「だって、形状といい、表面の質感といい、こんなものを素人が作れるものなの?」と半信半疑の顔をしていると…。

バックヤードに通していただきました。そこには、ゾウの頭ほどある「作品」が。パイソンでしょうか、頭蓋骨と角の部分です。こうしてバックヤードに置かれているところを見ると、作っているシーンが思い浮かびますね。しかも、発泡スチロールのようにとっても軽い素材を使っているとお聞きして、また驚いてしまいました。

クライマックスは、この【北広島産】マンモスの親子です。2016年4月中旬から7月上旬まで、約3か月の制作期間をかけて作ったという超大作。市内からのべ900人以上の小中高生及び大学生が集まり、じっくりと制作したのだそうです。

材質を詳しくお聞きすると、まず身体はホームセンターなどで手軽に入手できるスタイロフォームという安い建材を使ったとのこと。体毛はシュロという樹木の皮と、マンモス色(?)に染めた麻糸でできているそうです。素材まで「手作り」感が満点なわけですね。

親マンモスは、小中学生を中心に大学生がリーダー的な立場で入り、最後に学芸員が仕上げを担当。子マンモスは、市内の小学校8校と中学校2校のリレー制作とのことでした。ご覧ください、この牙の質感。これだけリアルなマンモスを作った子どもたちの達成感、どれほど大きなものだったのでしょうか。弾ける笑顔を想像するだけで、こちらまで嬉しくなりますよね。

完成したマンモスは、かかわった小学校を順番に回り、北海道博物館に3か月にわたり展示されたそうです。これには、子どもたちも最高に盛り上がったでしょうね! 家族と一緒に北海道博物館を訪れた子は、きっと胸を張って説明したことでしょう。

利用者が制作に深く関わり、自分たちの手で展示物そのものを作り上げる。それは、博物館としては究極の「手作り」と言ってよいのではないのでしょうか。こうしたプロセスで完成するのは、展示物だけではなく、貴重な制作体験と楽しい思い出、それに博物館ファンも作り出したに違いありません。

たくさんの子どもの思いが詰まった「手作り」の親子マンモスは、このミュージアムの象徴的な存在になりました。寒い地域の温かな展示は、制作に参加した子どもたち本人を含めて、この地の人々を静かに見守っています。



北広島市エコミュージアムセンター 知新の駅
<http://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/kyoiku/category/790.html>

北海道150年事業企画展 北広島のお米から北海道のお米へ
<http://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/kyoiku/detail/00130808.html>

北広島マンモス大復活プロジェクト
<http://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/kyoiku/detail/00126535.html>

ミュージアムITトピック

絶好調！ミュージアム展示ガイドアプリ 「ポケット学芸員」の2大ニュース

① 導入館が50館を突破しました！

2020年の東京オリンピック・パラリンピックが近づき、訪日外国人のさらなる増加が予想される今日この頃。各地のミュージアムでも、インバウンド対応の準備を急ぐ声が、日増しに大きく聴こえてきます。そんな背景もあってか、2016年にリリースしたミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」の導入館も増加中。この春には、ついに50館を突破しました。

これだけ多くの施設に導入されたガイドアプリは、ミュージアム業界では極めて珍しい事例となります。アプリとしての最大の特徴は、クラウド型収蔵品データベースと連動している点。同種のアプリには見られないこの特徴は、導入館に次のようなメリットをもたらすことになります。

(1) すでにできあがったサービスなので、最短2日で導入できます。

館が自力でオリジナルアプリを構築しようとすると、少なくとも数か月の期間を要します。これに対し、すでに完成して稼働中のアプリに「乗る」形となる「ポケット学芸員」なら、配信したいコンテンツさえ揃ってれば、早ければ【申し込みの2日後】には利用を開始することも可能。インバウンドの対応を急がなければならない場合でも即座に対応できるのが、最近の導入館急増の大きな理由と思われる。

(2) コンテンツの配信は簡単で、しかも無制限に入れ替えられます。

ポケット学芸員の編集機能は、点数に制限なく資料データを登録できるクラウド型収蔵品データベースシステム「I.B.MUSEUM SaaS」が担っています。解説用のテキストや画像、音声ファイルを登録しておけば、「公開するか、しないか」を【ON/OFFで切り替えるだけ】で配信可能。展示替えの対応も容易なので、データ数を気にすることなく、企画展のたびにガイドの内容を入れ替えることさえできるのです。

(3) 導入コストゼロで、将来の環境変化に合わせた改善にも費用が掛かりません。

クラウド型収蔵品データベースシステムの I.B.MUSEUM SaaS は、初期費用ゼロ、月額利用料3万円のサブスクリプション・サービスです。ポケット学芸員はこのサービスの一部なので、I.B.MUSEUM SaaS を導入してさえいれば【追加費用は一切かかりません】。また、デザインが流行遅れになったり、OSの仕様が大きく変更になったりと、改修やリニューアルが必要になった場合は事業者側が対応するのがクラウドサービスの利点。つまり、現在はもちろん、将来的なコストの発生を心配する必要もないのです。

- 「ポケット学芸員」でサービス提供中 および 提供予定のミュージアム -

北海道博物館／北海道開拓の村／だて歴史文化ミュージアム／岩手県立博物館／諸橋近代美術館／徳川ミュージアム／ミュージアムパーク茨城県自然史博物館／飯能市立博物館 きつとす／埼玉県立近代美術館／市川市東山魁夷記念館／浦安市郷土博物館／船の科学館／昭和館／賀川豊彦記念松沢資料館／郷さくら美術館／福生市郷土資料室／慶應義塾大学／青梅市郷土博物館／北区飛鳥山博物館／神奈川県立歴史博物館／あつぎ郷土博物館／大和市つる舞の里歴史資料館／小松市立博物館／福井市立郷土歴史博物館／名勝養浩館庭園／福井県立歴史博物館／福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館／窪田空穂記念館／松本市時計博物館／日本童画美術館 イルフ童画館／松本市立博物館／松本市山と自然博物館／多治見市モザイクタイルミュージアム／岐阜県博物館／史跡草津宿本陣／姫路市立美術館／島根県立美術館／松江ホーランエンヤ伝承館／ふくやま文学館／萩博物館／中原中也記念館／香川県立ミュージアム／瀬戸内海歴史民俗資料館／香川大学博物館／上島町岩城郷土館／横山隆一記念まんが館／高知県立美術館／福岡アジア美術館／佐賀県多久市／熊本博物館／臼杵市歴史資料館／鹿児島県立博物館／鹿児島県歴史資料センター黎明館／天城町歴史文化産業科学資料センター「ユイの館」

※2019年7月末日時点

② 令和元年9月、ポケット学芸員のデザイン&機能について、サービス開始後最大のリニューアルを実施！

デザインの視認性改善から、電波状況が悪い場合の対処、Bluetoothイヤホンへの対応、施設数増加に伴う画面の煩雑さの解消まで。今回のリニューアルでは、アプリユーザにより快適な閲覧体験を提供することを目的とした改善点を多数用意しました。

1) リニューアル内容

① 画面デザイン

これまでの画面は、ご高齢の利用者を中心に「文字が小さい」「色が薄い」というご指摘をいただくこともありました。また、貸出用にiPadなどのタブレット端末をご利用の施設からは、大きな画面では間延びして扱いにくいというご感想も。そこで、今回のリニューアルを機に、デザインの一新を決定。すでに運用中の館でご作成の案内パネルや来館者向けリーフレットなどに影響しないよう基本テイストやキャラクターイラストなどはそのままに、より視認性がよく、より扱いやすい画面となります。

② Bluetoothイヤホン対応

iPhoneの新しい機種ではイヤホンジャックが廃止され、Lightning及びBluetoothイヤホンのみの対応となっています。こうした時代性に合わせ、「ポケット学芸員」でもBluetoothイヤホンに対応。より多様なモデルのスマートフォンをお使いいただけるようになりました。

リニューアル後の画面 ※予告なく変更となる場合があります。



③ データダウンロード対応

「展示室の一角に電波状態が良くない場所がある」とお悩みの館のために、ポケット学芸員で配信されているデータをダウンロードできる機能を搭載します。エントランスなど、比較的電波状態の良い場所でダウンロードすれば、展示室内にWi-Fiがなかったり、電波が圏外だったりしても利用可能。ダウンロードするかしないかはアプリユーザ側で選択でき、またデータは24時間後には自動的に消去されるので安心です。

※ただし、「ポケット学芸員」でYouTube動画を配信している場合は、インターネットへのアクセスが必要。

④ 施設選択画面の検索対応

現在の施設選択画面は地方ごとにタブで分けて表示していますが、施設数の増加で若干探しにくくなりました。また、外国人利用者には日本の地方名が分かりにくいこともあるでしょう。そこで、施設名称の一部を入力すると検索できる機能を追加。また、現在地から近い施設を案内する機能も搭載することで、「いまいる施設に近いミュージアムを探したい」など、観光客が取りやすい行動に即した形でサービスを提供できるようになりました。

2) 周辺サポートについて

① リーフレットの作成

これまで、A4サイズの3つ折りリーフレットの印刷お届けキャンペーンや、ご希望館向けにデータ提供を行ってきましたが、今回のリニューアルで画面が変わるため、リーフレット内の画像との差異が生じます。ワインレッドのイメージカラーやキャラクターイラストのデザイン、及び基本操作は変わらないため、従来のリーフレットを継続使用でも重大な問題は生じないと思われませんが、新デザインのリーフレットを作成することといたしました。今回は日本語のほか、ポケット学芸員が対応している11か国語すべてについて作成。ご希望のご利用館には300部を印刷し、無料で差し上げます。

② 素材データの提供

リーフレットのデータについては、各館で別の用途にご使用いただけるよう、PowerPointで作成したものをお送りいたします。案内パネルなど独自制作のツールをお持ちの場合には、こちらのデータをご活用ください。

③ リーフレットや素材データの提供方法

別途申込書をご用意し、お申し込みの施設には圧縮ファイルやディスクメディアなどでお送りいたします。詳細は後日ご案内いたします。

ミュージアムITトピック

データベースをもっと楽しくする方法
PICK UP を使いこなそう

武蔵野美術大学 美術館・図書館



眺めるだけで楽しい貴重なジャケット画像のコレクション。学外に対しては曲目のみの公開ながら、学内なら音源ファイルの再生も可能とか。

「中村とうようコレクションデータベース」は、武蔵野美術大学が音楽評論家の故・中村とうよう氏より寄贈を受けたコレクションの中から、SPレコードをはじめとした音源、楽器、図書、雑誌、映像資料を検索できるサービスです。総データ数約50,000件、音源ファイル約35,000件という大規模なデータベースで、武蔵野美術大学 美術館・図書館がI.B.MUSEUM SaaSを使ってインターネット上で公開しています。

サイトにアクセスすると、上部にキービジュアルとなるヘッダ画像、中央に検索パ

ネルがあり、下部には美しいレコードジャケットの画像がズラリ。右はこの8月時点のもので、下部は前月に亡くなったブラジル人のボサノバ歌手であるジョアン・ジルベルトを偲ぶ特集。左は、更新前の下部の一部。5月に亡くなったアメリカの女優／シンガー、ドリス・デイの追悼特集でした。

I.B.MUSEUM SaaSの公開ページには検索条件を入力する検索パネルが表示されますが、何気なくサイトに訪れた人にも興味を持ってもらえるよう、掲載コレクションをまとめて表示する「Pick Up」コーナーを

設置できる機能があります。開くたびに異なるコレクションをランダムに表示させたり、ひとつのテーマに絞って表示させたり、使い方は自由。このデータベース検索サイトの場合は、訃報に接したファンのために「追悼」という特集タイトルを付けて、とうよう氏のコレクションを紹介したわけです。

データベースサイトは、無機的な検索ロボットに見えがちです。でも、「おすすめ」「名品」など、スタッフの温かみを表現することで、もっと楽しく見せることも可能。この事例は、まさにその好例と言えます。

I.B.MUSEUM SaaS 新機能情報

権利関連の表記をもっときめ細かく
画像の利用条件・ライセンスの表記について

令和元年6月の機能追加で、I.B.MUSEUM SaaSでは、クリエイティブ・コモンズとライセンス・ステイトメントのライセンス及びパブリック・ドメインのマークを表示できるようになりました。

クリエイティブ・コモンズは、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス(CCライセンス)を提供している国際的非営利組織とそのプロジェクトの総称。CCライセンスとは、作品を公開する作者が、利用条件についての意思を表示するためのマークです。いずれも、複雑化の一途を辿る権利管理を効率化するためのものですので、現代のライセンス環境に相応しい機能強化となります。



この機能を使用すると、公開ページに画像を利用するにあたってのライセンスが表示されます。上の作品の画像に付されているクリエイティブ・コモンズのマークをクリックすると、同サイトのPublic Domain Mark 1.0の説明にジャンプします。

ミュージアムの画像データの公開は、著作権など複雑な手続きが絡みます。インター

ネットを活用したプロモーションの存在感は増大する一方で、その巧拙が集客に大きく影響する時代となりました。たとえば、森美術館は2018年美術展覧会「入場者数」1位・2位を獲得していますが、原則的に館内の撮影、SNSへの掲載は自由で、日本の美術館・博物館の中で最大規模のSNSフォロワー数を活用したデジタルマーケティング戦略で成

果を挙げています。

インターネットで画像を流通させることによるPR効果を狙うか、画像の権利保護を重視するか。どちらが主流になるのか、現在はその過渡期にあるように思われますが、ライセンスを明記することは「権利を守りながら効果を獲得する」ための方法の一つです。ぜひ、積極的にご活用ください。

表記	説明	詳細
Public Domain Mark	パブリック・ドメイン	著作権による制限がなく、自由に利用可能であることを意味する。
CC0 Public Domain Dedication	CC0 Public Domain Dedication パブリック・ドメインへの供与	著作権による制限がなく、自由に利用可能であることを意味する。
CC BY	表示	クレジットの表示とライセンスのリンクを表示すれば、営利利用を含め、複製、改変、再配布が可能。
CC BY-SA	表示 - 継承	クレジットの表示とライセンスのリンクを表示すれば、営利利用を含め、複製、改変、再配布が可能。
CC BY-ND	表示 - 改変禁止	クレジットの表示とライセンスのリンクを表示すれば、営利利用を含め、複製、再配布が可能。改変は不可。
CC BY-NC	表示 - 非営利	クレジットの表示とライセンスのリンクを表示すれば、非営利の場合のみ、複製、改変、再配布が可能。
CC BY-NC-SA	表示 - 非営利 - 継承	クレジットの表示とライセンスのリンクを表示すれば、非営利の場合のみ、複製、改変、再配布が可能。再配布する場合は、元の作品と同じライセンスのもと行わなければならない。
CC BY-NC-ND	表示 - 非営利 - 改変禁止	クレジットの表示とライセンスのリンクを表示すれば、非営利の場合のみ、複製、再配布が可能。改変は不可。

詳しくはWEBで!

creative commons
<https://creativecommons.org/>

● ライツ・ステイトメントについてはこちら

RIGHTS STATEMENTS
<https://rightsstatements.org/>